

雌阿寒岳の火山活動解説資料（平成 20 年 12 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

雌阿寒岳では11月28日から29日に発生したごく小さな噴火以降、新たな噴火は発生していません。

火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々発生し、ポンマチネシリ火口の噴煙活動はやや活発な状態で推移するなど、火山活動は引き続きやや高まった状態が継続しています。

今後しばらくの間は、ごく小さな噴火を繰り返す可能性がありますので、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

平成 20 年 12 月 16 日に噴火警戒レベルの導入に伴い、火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。雌阿寒岳の活動状況及び予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 地震活動（図 2～6、表 1）

2 日、3 日及び 15 日に振幅が小さく、継続時間の短い火山性微動が観測されました。火山性微動の発生前後で噴煙の状況に変化はありませんでした。

火山性地震は 3～4 日と 12～17 日にかけて一時的に増加（最大：16 日 129 回）しましたが、その後は日回数 9 回以下で推移しました。

震源は概ねポンマチネシリ火口付近に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

・ 噴煙及び熱活動（図 5～6）

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは火口縁上概ね 100～300m で推移し、噴煙活動はやや活発な状態が続いています。

赤沼火口、北西斜面 06 噴気孔列及び中マチネシリ火口の噴煙の高さは火口縁上概ね 100m 以下で推移し、噴煙活動は静穏な状態が続いています。

・ 地殻変動（図 7～9）

GPS 連続観測では、特段の変化は観測されませんでした。

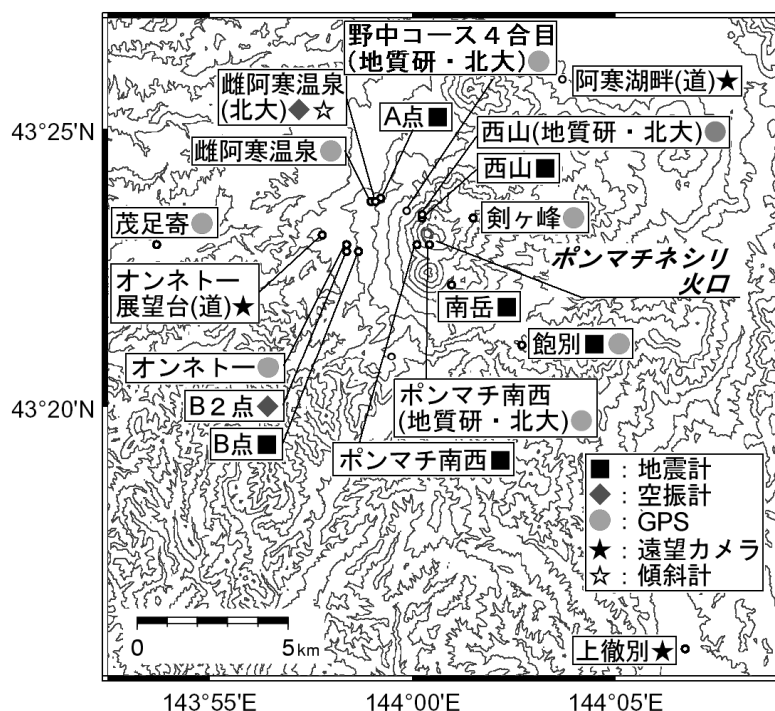


図 1 雌阿寒岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 1 月分）は平成 21 年 2 月 6 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（図 1 の B 点）

2008 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	1050	55	18	14	21	15	19	17	1699	512	795	569
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	14	3

- ・ 12月の回数は暫定で、後日修正することがあります。
- ・ 10月の火山活動解説資料から過去に遡って深さ10km以深を震源とする深部低周波地震を除外しています。このため、以前の資料と地震回数が異なる月があります。

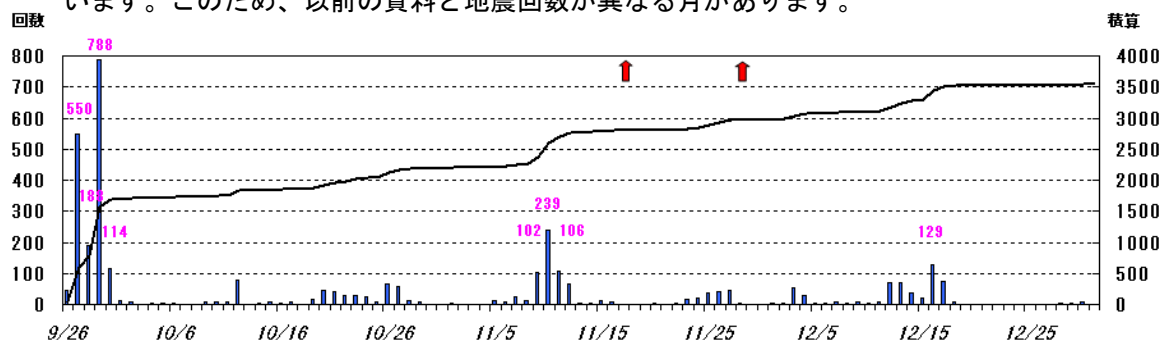


図 2 雌阿寒岳 地震活動推移（2008 年 9 月 26 日～12 月 31 日）↑印は噴火
棒グラフは日別回数、折れ線グラフは積算回数

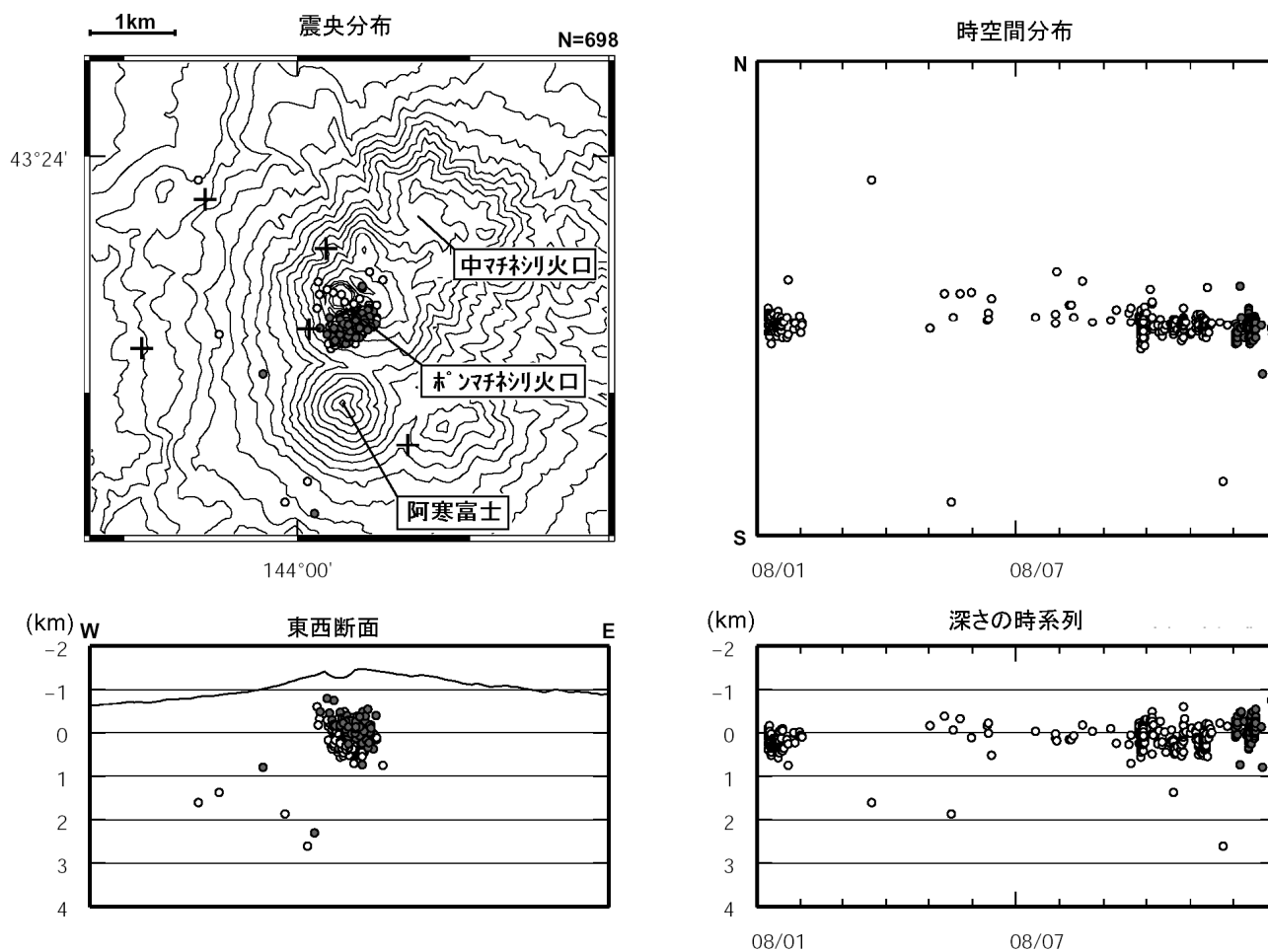


図 3 雌阿寒岳 震源分布図（2008 年 1 月～2008 年 12 月、+は地震観測点）

- 印は今期間（2008 年 12 月）の震源
- 印は前期間までの 11 ヶ月間（2008 年 1 月～2008 年 11 月）の震源
- ・ 前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口付近の浅い所（山頂から深さ 1 ～ 3 km 付近）に分布しています。今期間の震源も概ねこの領域内に分布しています。

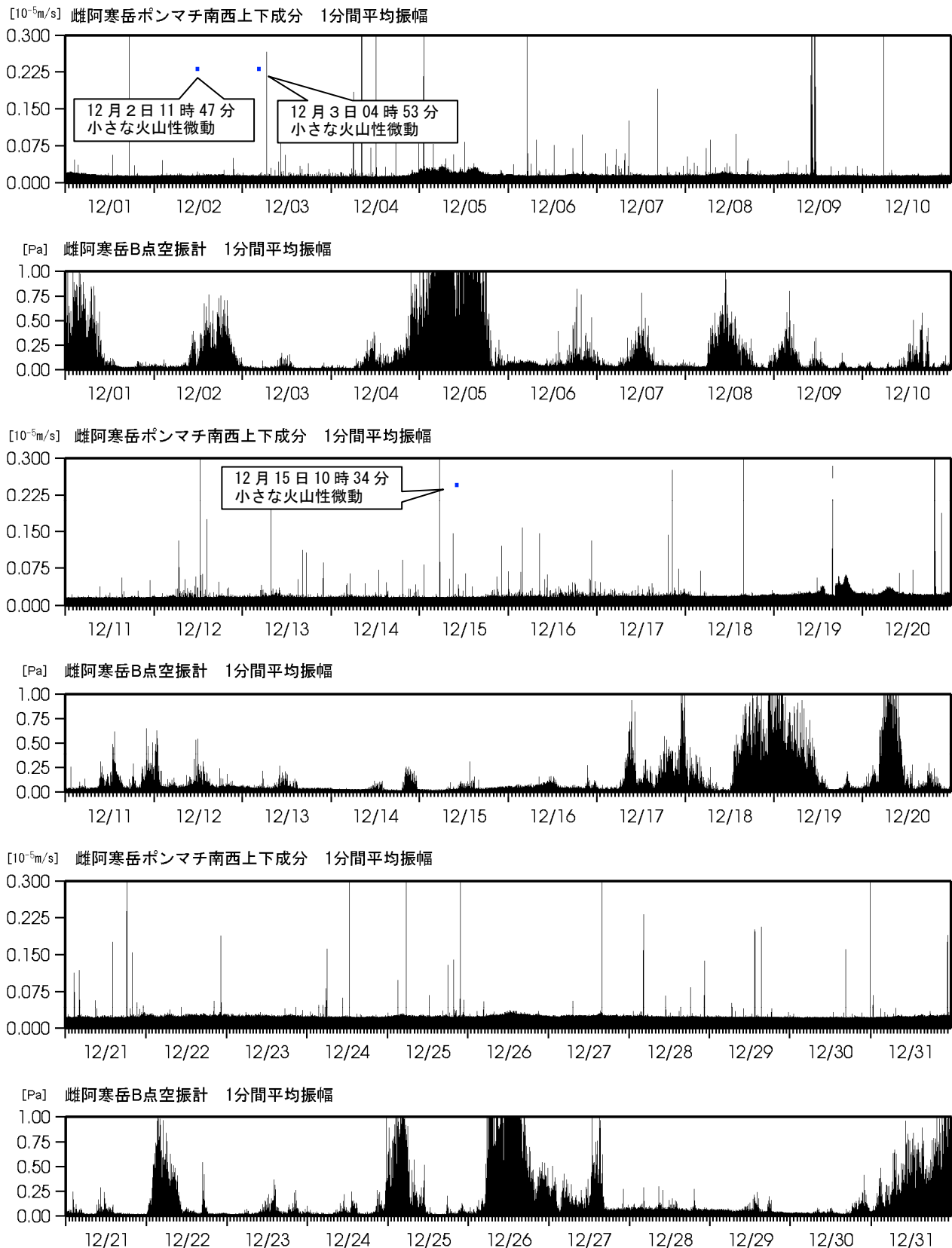


図4 雌阿寒岳 火山性微動の発生状況（2008年12月1日～12月31日）

- ・ 空振計で大きな空気振動を記録しているときには、強風により地面が振動している可能性があります。
- ・ 今期間、規模の大きな火山性微動は発生しませんでした。

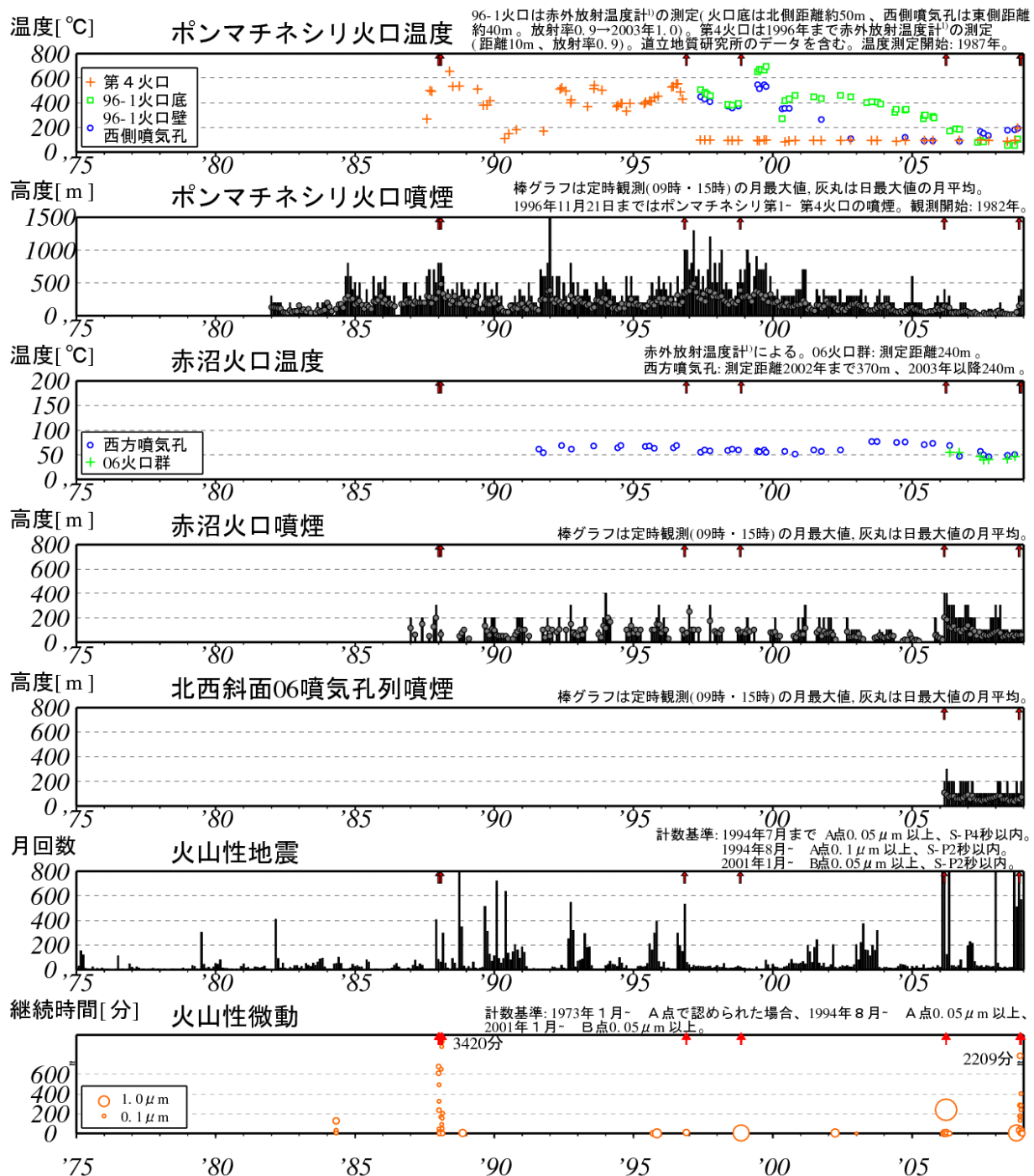


図5※ 雌阿寒岳 長期の火山活動経過図（1975年1月～2008年12月） ↑印は噴火
（1988年、1996年、1998年、2008年：ポンマチネシリ火口からの噴火、2006年：赤沼火口からの噴火）

- ・ 1988年以降、ポンマチネシリ火口ではごく小さな噴火が繰り返されています。これに対応して、火口温度の高温状態や噴煙活動の活発な状態が1987年以降1999年まで続いていました。地震活動もこの間、地震の増減を繰り返し、火山性微動も時々観測するなど活発な状態が続いていました。
- ・ その後、ポンマチネシリ火口の熱活動や噴煙活動は徐々に低下傾向となり、2003年以降は地震活動を含め火山活動は比較的静穏な状態で推移していましたが、2006年2月からはポンマチネシリ火口直下の西側を中心とする地震活動が活発化し同年3月に赤沼火口内及びポンマチネシリの北西側斜面でごく小さな噴火が発生しました。
- ・ その後、地震の増減を繰り返し、2008年9月以降、地震活動の活発化、火山性微動の発生、熱活動の若干の高まり等がみられ、11月にごく小さな噴火が発生しました。

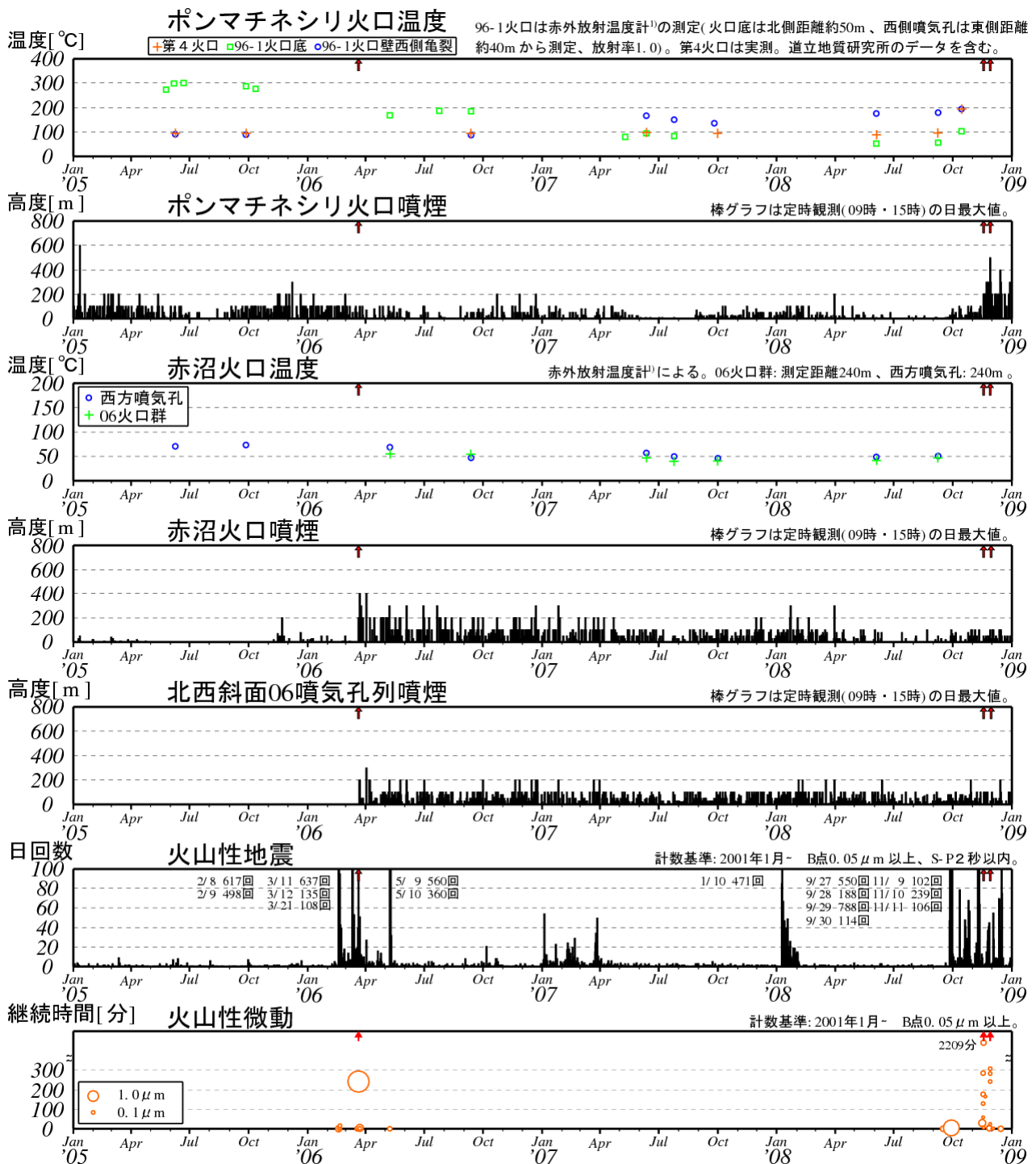


図6※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図（2005年1月～2008年12月） ↑印は噴火

- ・ ポンマチネシリ火口温度は低下傾向がみられていましたが、2008年10月の観測でやや上昇し、2008年11月にごく小さな噴火が発生しました。
- ・ ポンマチネシリ火口の噴煙活動は、静穏な状態が続いていましたが、2008年11月のごく小さな噴火以降やや活発な状態で推移しています。
- ・ 2008年11月のごく小さな噴火以降、小さな火山性微動が時々発生しています。
- ・ 火山性地震は2008年9月以降増減を繰り返しながら推移しています。

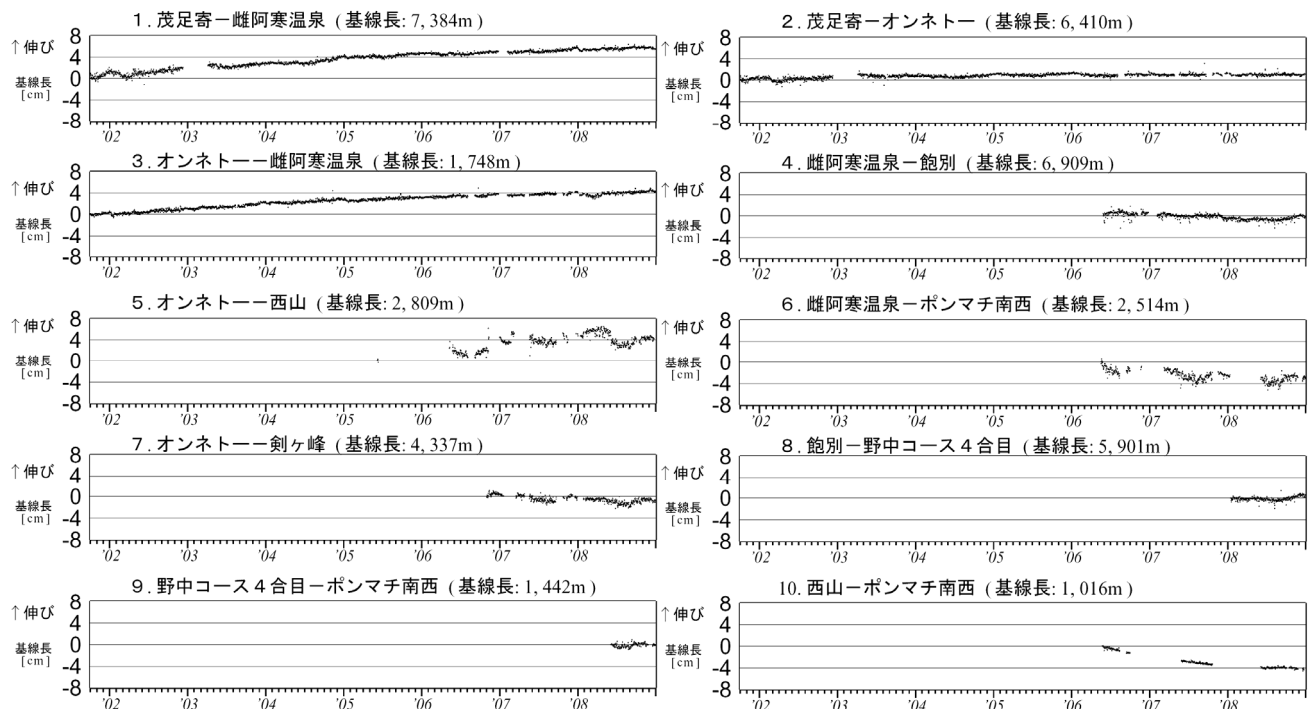


図 7 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2008 年 12 月）

グラフの空白部分は欠測 図 7 の 1～10 は、図 8 の GPS 基線①～⑩に対応しています。

・火口を挟む 4. 雌阿寒温泉－飽別の基線等で、若干の変化が観測されています（図 9）。

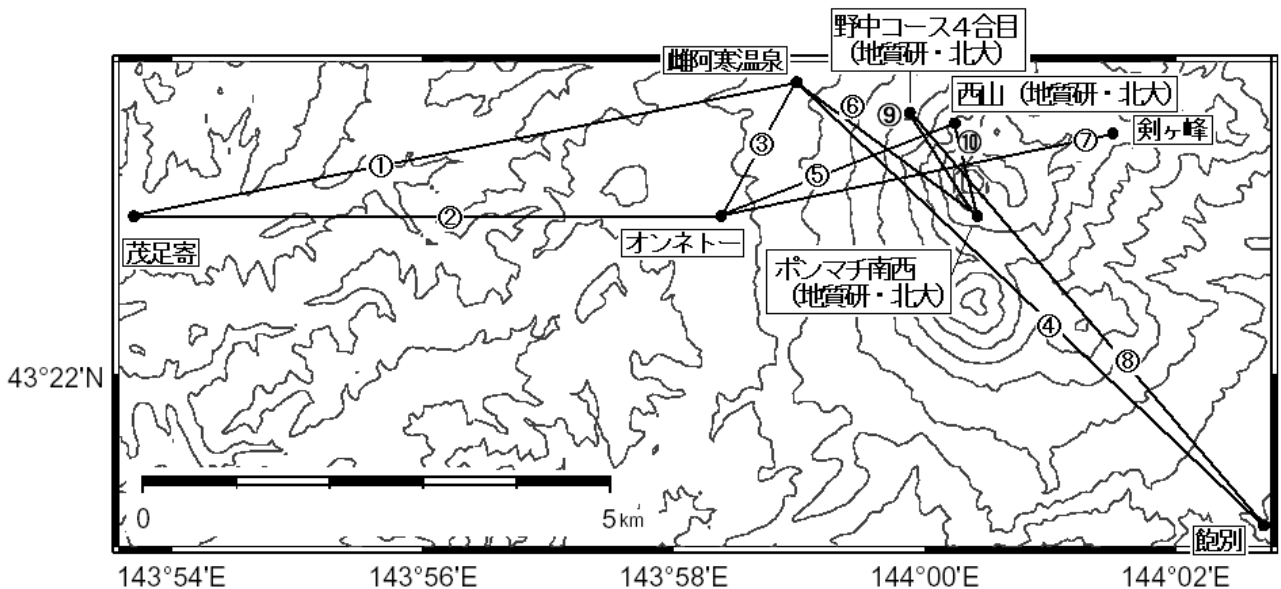


図 8 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

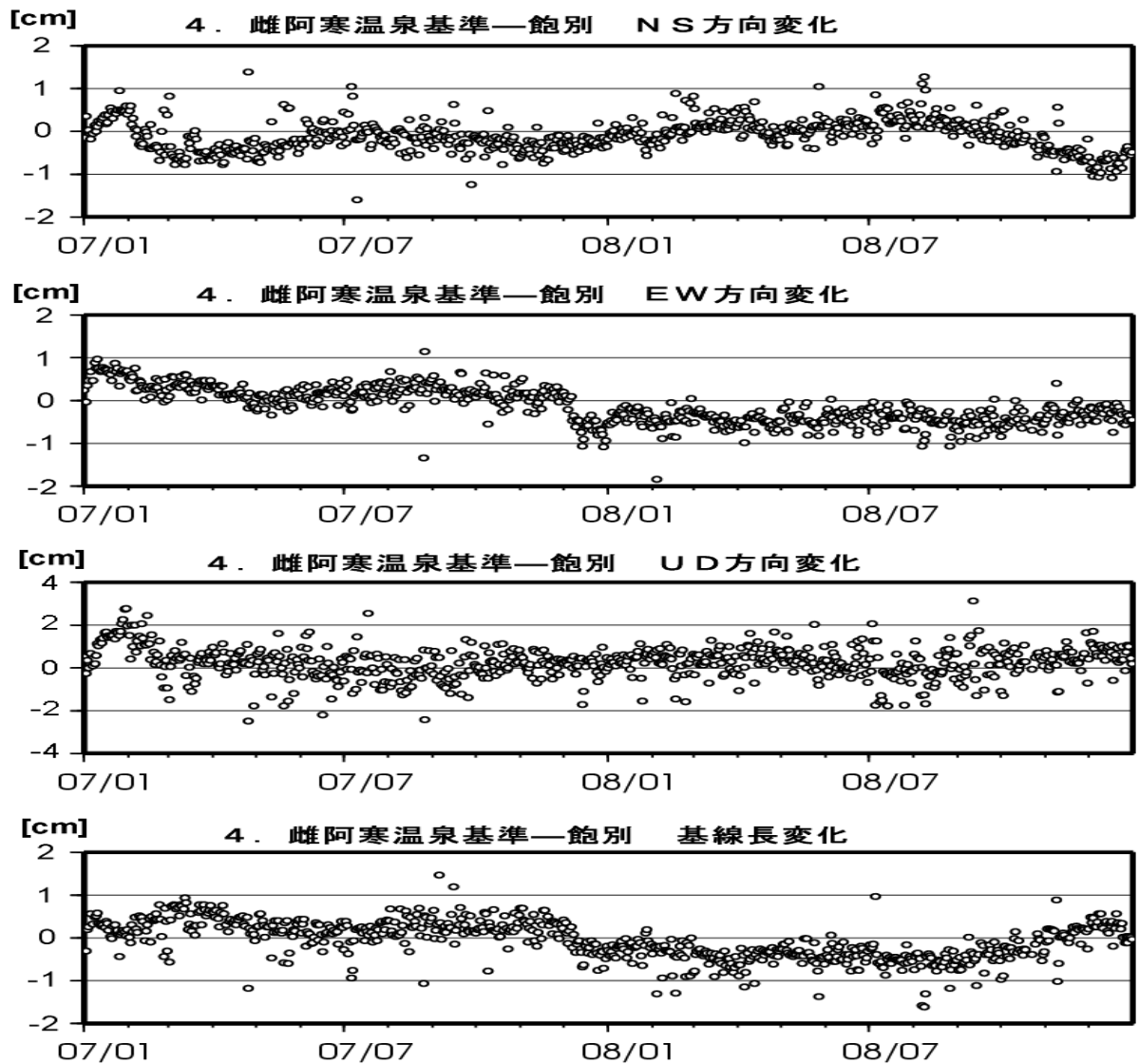


図9 雌阿寒岳 GPS 連続観測による成分別変化（2007 年 1 月～2008 年 12 月）

図9は、図8のGPS基線④に対応しています。雌阿寒温泉が動いていないとすると、値が大きいほど、飽別が北、東、上、離れる方向に動いたことを示しています。

- ・ 2008 年 9 月頃から南北方向に伸びる変化がみられていましたが、12 月になり鈍化・反転しています。これらの変化の原因についての詳細は不明です。